

## 地域包括ケアネットワーク No.81

「認知症の方を優しく支えられる地元高校生を育てよう！」  
“地域包括ケア みつネット”の取り組み：  
『注文を間違えるレストラン』企画の紹介

御津医師会理事 大森 信彦  
国立病院機構岡山市立金川病院院長



“地域包括ケア みつネット”（以下、みつネット）は、地域に密着した医療介護福祉連携ネットワークを構築するために、国立病院機構岡山市立金川病院を事務局として、平成24年10月に設立された多職種ネットワークです。毎月一回定期会議を行い、地域の諸問題の情報共有をして来ました。さらに、健康新聞定期発行、認知症カフェやケアカフェの開設、年一回の健康フェスタの開催などを通して、地域住民の健康意識啓発や、専門職の技術向上に取り組んでいます。しかし、コロナ禍が拡大した本年度は、活動自粛を余儀なくされ、ウィズコロナ時代の新しい活動形態を早急に模索していかなければならないと考えているところです。

今回ご紹介する『注文を間違えるレストラン』企画は、令和元年度に地元の岡山県立御津高校との協働で立案・実施したもので、その成果については、岡山で開催されたG20保健大臣会合において取り上げられるとともに、岡山市の『第4回おかやま協働のまちづくり賞』で入賞という評価をいただきました。少子高齢化と人口減少が進む中山間地において、認知症を持つ高齢者の生活を支え、町を守っていくには、専門職だけではなく、一般住民の理解・動機付けと参画が不可欠です。

幸い、御津には県立岡山御津高校があり、「間もなく社会に出る若者」という人的資源を生かしやすい環境にあり、高齢者と高校生という世代間の交流が自然にできる環境が整えば、地域の魅力や習慣、知恵を世代間で継承するきっかけとなるかもしれません。さらに、お互いを思いやり助け合う気持ちが生まれ、あたたかいまちづくりにもつながっていけば、地域



開店前に、みんなで「ハイ、ポーズ！」。  
ちょっと緊張気味!?



「あらや〜だ、わたし、忘れちゃったわ〜(笑)」  
「ドンマイで〜す(笑笑)！」

包括ケアの本質的で理想的な姿に近づけるのでは！折しも、御津高校では、『地域課題発見学習』という新しい教育プログラムが発足したこともあり、高校生が主体的に問題解決に取り組める機会として、われわれ専門職が講師を務める認知症サポーター講習とセットの形で、「認知症の患者さんが給仕役となって高校生がそれをサポートする、1日限りのランチタイム食堂」企画を提案したのです。



「えへへ照れるわね～。お待たせしました～(笑)」  
「おいそ～！」

さんへのサポート対応を繰り返していく姿。まさに脱皮でした！ご家族も見たことのないような幸せで生き生きとした表情で「給仕」を頑張り切った患者さんたち。そして、それを見てうれし涙するご家族の皆さんなどなど、生徒、患者、家族、専門職が、それぞれの立場で新たな発見があり成長することのできた珠玉の時間であったと思います。今年度も、さらに趣向を凝らして開催すべく、新しい生徒たちとともに企画を練りつつあったのですが、新型コロナウイルスによって阻まれました。残念無念。

昨年度の“熱”が冷めないうちに、何とか早期に2回目の開催にこぎつけるべく、新型コロナとの付き合い方を研究していかねばなりません。そして、御津の地域ぐるみの恒例行事として根付かせ、御津地域包括ケアシステムのシンボルに育て上げていけるよう、知恵を出し合って頑張っていきたいと思います。この企画には、御津在住の方以外の参画も大歓迎ですので、興味とアイデアのある方、どうぞお力をお貸してください！

元NHKディレクターの小国士郎氏が東京で開催した企画を参考にしました。

地元在住の認知症患者さんとそのご家族のご理解もあり、参加者数約60名で、地元のデイサービス施設を利用し開催しましたが、私がこれまで経験してきたどの催し物よりも、笑顔と、感動と、驚きがあふれ、「やってよかったね！また来年もやろうね！」とスタッフ一同、達成感に浸ることができました。認知症など全く知識も興味もなかった高校生が、どんどんOJTによって成長して自発的に患者さん



「これからも、がんばるぞ～!!」  
(認知症サポーター講座修了式にて)